

潮来市消費生活センターからのお知らせ

電気、ガスの勧誘に注意

【事例】

- ・突然、自宅に電話があり「料金プランの見直しをすると電気料金が安くなる」と勧誘を受けた。安くなるならと思い、後日、担当者に来てもらい契約をした。後から契約書をよく読むと、電力の契約先の変更だった。クーリングオフできるか。
- ・実家の母が、訪問販売でガス代が安くなると勧誘を受け契約をした。工事が必要なようだが、内容をよく理解していないのでやめさせたい。



【解説・アドバイス】

電気、ガスの小売り全面自由化に伴い、消費者が事業者を自由に選択できるようになりました。

- ・電気、ガスの料金のプランや算定方法をよく説明してもらい確認しましょう。
- ・勧誘してきた会社と新たに契約する会社の社名や連絡先を確認しましょう。
- ・契約を変更してしまってもクーリングオフ等ができる場合があります。

困ったときやトラブルにあってしまった場合は、一人で悩まず、すぐに潮来市消費生活センターにご相談ください。

【お問合せ】 潮来市消費生活センター ☎62-2138

まちづくり・潮来の自然と歴史を知る

潮来市の誇れる自然

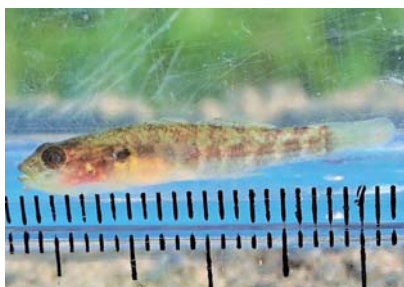
第67回

水郷の魚たちーゴロは湖で回遊しヨシ帯で育つ

水郷のお土産の定番といえば佃煮です。原材料はワカサギ、シラウオ、フナ、ゴロ、川エビなどさまざま。これらのうち「ゴロ」は、小型ハゼ類の複数種を総称する地方名です。プロの技で丁寧に炊かれたゴロ稚魚の佃煮は、甘辛いなかに深い旨みを感じられ、新米によく合う一品です。

霞ヶ浦でのゴロの漁獲量は、1978年のピーク時に4,733トンに達したあと減少に転じ、2010年以降は10トン前後で推移しています。しかし、近年までゴロの生態や減少要因を調査しづらい状態でした。なぜなら、ゴロの稚魚を種ごとに識別する方法がなかったからです。

この問題に取り組んでくれたのが、東日本大震災の頃に、私の研究室に所属していた百成さんをはじめとする学生たちです。彼らはまず、卵からふ化した約3mmの仔魚から約1.5cmの稚魚を、体表色素の分布様式などで



ヌマチチブの稚魚（体長2cm）



ゴロ（ヌマチチブ）の佃煮

種ごとに識別する方法を確立し、漁獲されるゴロはほとんどがヌマチチブという種であることを示しました。次いで、2年間にわたる野外調査で、河川や湖岸近くで卵からふ化したヌマチチブ仔魚が湖の沖に広く分散し、体長1cmになると沖の底層に集まったあと、体長2cmになると岸際へと移動することも解明しました。沿岸回遊という習性です。このとき食性もプランクトンから底生生物へと変化します。その後、稚魚はヨシ帯の滞在し成育します。本種の資源量に影響を及ぼす要因のうち、ヨシ帯の劣化・消失は外来魚による影響や湖底近くの貧酸素水塊発生とともに大きな問題です。ゴロの佃煮を将来の世代に残すために、これらの環境の改善に努めていきたいとこ

加納 光樹

茨城大学地球・地域環境共創機構水圏環境フィールドステーション